

アクティブ・ラーニング事例集

中国王朝の変遷

教科書の関連項目
テーマ1～3・5～7

学習目標

- (1) 中国王朝の変遷や周辺諸民族との関係を勢力図を利用して視覚的に考察する。
- (2) 既習事項である中国史の知識を活用することができる。
- (3) 個別の王朝の動きのみならず中国史全体を通観する視点を身につける。

授業の展開

指導上の留意点

事前準備 2分
グループ分けをおこなう（3～5名）。

活動1 中国王朝の勢力図を時代ごとに並べ替えてみよう

21分

- ①中国王朝の勢力図のコピーと貼付用の台紙を各グループに配布する。（1分）
 - ・使用する図は、教科書 p.16（前漢）・p.18（唐）・p.20（南宋）・p.27（元）・p.28（明）・p.30（清）の6種。図には、王朝名のみを消去してランダムに番号を振っておく。②で2回貼付するため、図・台紙ともに2枚ずつ配布する。
- ②各グループで勢力図を時系列順に並べ替え、台紙に貼付させる。（20分）
 - ・最初に図のみ（今までの既習事項の知識）で判断させる。
→各グループごとの考えを発表させる。
→発表の際には、なぜそのように並べ替えたのかという理由も付け加える。
 - ・次に教科書を使用して正確な順序に並べ替えさせる。
→最初に考えた順序と教科書を使用した正確な順序を比較させる。
→間違えた部分を各グループで考察し、その理由を考えさせる。

- ①台紙は無地のA3用紙（②の発表の際にクラス全体に明示するため）。
図は6種すべてが台紙に貼付できるサイズにするとよい。
- ②机間巡視をおこない、並べ替えの明確な理由を考えさせるように指導する。地図上の都市名や近隣諸国の様子などのヒントを与えるとよい。

活動2 王朝ごとの特徴を考えてみよう

25分

- ③各グループにランダムで6種の図をそれぞれ割り当て、各王朝の判断ポイントやその特徴を考えさせる。（15分）
 - ・発表までに時間をとり、各グループで発表内容を考えさせる。
 - ・既習事項のため、教科書の図版も含めて検討させる。
 - ・グループごとの考えを発表し、質疑応答をおこなう。
- ④各王朝の周辺諸民族との関係を発表させる。（10分）
 - ・③で割り当てた王朝を各グループごとに考える。
 - ・教科書の記述（既習事項）を再度確認させることで、復習を兼ねること。
 - ・グループごとの考えを発表する。

- ③割り当てられた図の検討をしつつ、他の図についても考えて質疑応答の際に質問できるように指導する。
- ④特に北方諸民族や東南アジア諸国との関係を中心に考えるように指導する。

まとめ 2分
グループ活動を通じて、中国王朝の変遷に関する総合的理解を自己評価する。

授 業 の た め に

授業案の前提

■想定した生徒観

- ・学習進度：前近代の中国史関連項目をすべて学習済みであること。
- ・生徒観：高等学校第1学年（文理未選択・全員履修）・高等学校第2学年（理系選択者）を想定。世界史を初めて学習している状態を想定している。
- ・グループ人数の基準：3～5名、最大6グループが理想（授業の展開を参照）。

■1コマあたりの時間 50分。

「授業の展開」解説

■**テーマについて** 本教科書は、学習内容の最初に中国史を扱う。高校世界史を初めて学習する生徒にとって、中学歴史や高校日本史でも扱う中国史は、世界史の中でも最も関心を持ちやすい地域であるといえる。また、中国史は基本的に中国大陸における王朝変遷が中心のため、勢力図が入り乱れ時代が前後する他地域よりも理解しやすい点がある。

これらの利点を最大限に生かしたのが、本AL事例である。中国王朝の変遷をグループワークで学習する形態を採った。中国史の学習では、各時代ごとに勢力図を確認することは当然だが、それぞれが終わるたびに次の時代へと進み、全体を通史的に振り返ることは少ない。そのため、本事例では中国史をすべて学習した上で、その既習事項を自身の知識として扱っているのかどうかという点、および勢力図を使用することで視覚的に把握できるかどうかという点がポイントとなる。その上で、中国史の通史的理解を深めさせたい。

■活動の解説

- ① 中国王朝の勢力図については、教科書と同じものを使用する。生徒観にも示したとおり、第1学年や理系選択者の学習を想定している。そのため、目新しい独自の教材や複数の教材を利用することよりも、まずは各自が必ず所有している教科書をしっかりと使いこなすことが有効であろう。既習したものを利用するため、生徒にとっても扱いやすくなる。
- ② 並べ替えのグループワークの際のポイントは、並べ替えの理由を「感覚」や「適当」ではなく、しっかりと理論付けて考えさせることである。例えば、グループ内の意見交換の際に、必ず理由を説明させるなどの条件をつけることもできるだろう。この際、既習事項であるということが重要で、その既習事項

に生徒が気づけるようなアドバイスが教員に求められる。例として、領土の大きさ、王朝の首都や北方民族の名称、日本の状況などがある。

発表後に教科書を使用して正確な並べ替えをおこなう際には、グループの考えた順序と正しい順序を比較させて、間違えた点を考察させたい。例えば、前漢と唐のように勢力図が似ている場合は、周辺諸民族との関係や首都などの比較が最も有効である。また、並べ替えの正答を得点化してゲームのようにするのも一つの手段であろう。

③④ ①・②を踏まえて、グループごとに割り当てられた王朝について教科書を使用して調査する。割り当ての理由は、一つに絞ることで関心をもって集中して調べることができるからである。教科書に書かれている内容を基準とするが、それ以外の内容も積極的に取り上げるようにしたい。特に、北方諸民族は中国史とは深い関係にあるため、重要である。

前漢・唐→中国王朝が優勢、南宋→諸民族が優勢、明→拮抗、元・清→異民族王朝（征服王朝）という特徴は、必ず気づかせたい点である。

■**評価について** グループワークへの参加度をまず見極めたい。人数が多くなるほど、埋没する者も増えるため、3～5名が理想である。また、本ALではグループ内の役割分担を決めていない。活動内容によって役割分担が流動的におこなえることを理想としている。「一人一人の考えを出し合って、全員で検討する」ことを目指したい。

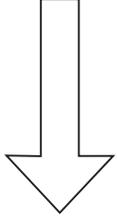
発表内容の評価については、まず教科書をしっかりと調べて解答を見つけることができているかどうか第一段階である。その上でグループ独自の発見を導き出すことができているかどうか第二段階である。まずは第一段階をしっかりと評価できるようなALを実践したい。

中国王朝の勢力図を時代ごとに並べ替えてみよう

グループの解答

→	→	→	→	→
---	---	---	---	---

理由：



正しい順序と王朝名

→	→	→	→	→
()	()	()	()	()

王朝ごとの特徴を考えてみよう

あなたのグループは (.....) について調べよう！

特徴について：

周辺諸民族について：

自己評価項目	評価
グループワークに積極的に参加できたか。	
既習事項を自身の知識として課題の検討に活用することができたか。	
グループワークを通じて、中国王朝の変遷をさらに深く考察できたか。	

〈評価基準〉 A =よくできた B =できた C =あまりできなかった D =まったくできなかった